

全国集会で学び、感じたこと諸考

黒澤 学 (仙台NPO研究会)

混沌を極め続けるこの国には、夢を語られる21世紀も未来もないらしい。(もともと、最近では小学生でも知っているらしいが。)

低経済成長時代の政治経済の進め方さえ組み立てられず、バブルの夢を追い続けている政治業界と経済業界の呆れた面々。

社会保障の充実にかこつけた増税の裏側では、官官接待にカラ出張……。私も含めた国民は、何のために働き、税金を納めているのか。

出口さえ見えない超長期の不況、世紀末の不安も加わって、虚無感に苛まれる人々。特に、若者たち。また、一部の人は次の社会の“像”を模索している。

それが、NPOや市民活動、ボランティアなど、市民が主体的となって取り組み始めた一連の活動なのではないか。もち論、「労協」の活動もその一つと認識しています。

阪神大震災で沸き出した「市民の力」は、まさに既存のセクター（行政や企業）に対して社会の主体を任せては置けないと言う「市民」の意思表示ではなかったのか。

今後、この流れが主流の一角を締めながら、混沌からの脱出をせぬばならぬと考えています。

夢を語ることが出来る未来を取り戻す活動が必要です。

それは大川君から始まった

とある夏の日の午後、それは大川君の訪問から始まりました。「労協」に「センター事業団」、「全国集会」。正直なところ、何の説明を受けたのか良く分からなかった。

「労協」という言葉は、始めてではなかった。ある程度は知っているつもりではいたが、良く分からなかった。一緒に説明を聞いた者も同じだったようだ。

しかし、記憶の中には関西弁で熱っぽくまくしたてる大川君の姿とエネルギーが強烈に刷り込まれてしまったのです。

思い起こせば、「いま協同を問う'96全国集会」に関わることとなった、原点がそこにあったのです。

縁とは奇なモノ、おつなモノ。最近ではネットワークの広がりなどと申しますが、6回目に合った時には、全国集会の司会進行についての打ち合わせをしておりました。

では、なぜ? 「大川君」や「労協」と知り合うことになったのか?

仙台NPO研究会に参加して

ここ3年ほど、仙台NPO研究会のメンバーとして日本の「非営利の公益市民活動」の活動環境や支援システムのあり方などについて考えてきました。

(NPO=Non-Profit Organization=非営利組織)

当初の2年間は、NPOを研究の対象と捉え、海外事例や情報の収集、我が国での展開の可能性、法制化に向けてのシュミレーションなどを行っていました。

しかし、徐々にNPOを研究対象と捉えることの限界を感じ、既存の市民活動とのネットワークの形成や仙台NPO研究会が市民活動社会で担うべき役割を模索するなかで、セグメント・プロジ

エクトの立ち上げに参加しました。

(センダード・プロジェクトの詳細については本誌96年11月号23、24頁参照)

研究の対象としてNPOを捉え、また、実践の対象としてNPO(市民活動)に関わることによって、日本のNPOの現状が自分なりによく見えるようになって来ました。

ボランティアや寄付行為が普遍化し、市民社会が成熟しているアメリカでのNPOと未成熟な日本でのNPOでは、存立基盤に決定的な格差があります。市民社会の成熟に向けた働きかけと同時に、現在の日本社会のなかでも成立しうるNPOのモデルを構築することが必要な時期に差し掛かっています。

11団体15名が参加する市民活動ネットワークである、センダード・プロジェクトの取り組みに関わってから、わたしのネットワークも極端に広がって来ました。「継続は力なり」と言いますが、まさに「継続はネットワークなり」と感じています。また、ネットワークは手段であり、目的ではないこと、いかに生かすかが重要かも痛切に感じています。

’96全国集会に関わって

ネットワークの広がりの結果として、今回の全国集会に関わることに成りました。

わたしが育ったまち、仙台において「いま協同を問う’96全国集会」が行われたことは、市民活動やNPOに関わるものとして非常に大きな意味を感じます。

また、それに関わる事ができたことに感謝しています。

2日間の全国集会を通じて、「労協」に関わっている方々の多くが、大川君と同様にエネルギーに満ち溢れ感動すら覚えました。

特に、生涯現役を通しての高齢者の皆さんの生き生きとした明るさには、少子化と高齢化社会での生き方として学ぶべきものも感じました。

最初に司会の依頼を受けた際には正直に言って二の足を踏みました。1,000人規模の集会の司会

だけでも荷が重いのに加えて井上ひさし先生にパーキンスさんと、とても自分には出来ないと感じていました。しかしこれも、大川君の「古村さんと3人でやろう。年も31、32、33歳のゾロ目だし。」と言う熱意に押され、引き受けることに成りました。今考えても無謀だったなと感じています。

司会、市民活動、NPOも総て同じですが「まずやってみる」ことが重要だと考えています。最初は、誰しものがビギナーであり、何事も行動を起こさなければ先へは進みませんし、向上もありません。

今回の全国集会で、大舞台を踏ませて頂いたこと、更に新たなネットワークを頂戴したことにあらためて感謝を申し上げます。

若者と労働者協同組合

労働者協同組合が失対事業の流れを強く受け、以前からの組合員全体が高齢化しているなかにも非常の多くの若い方々も加わっているのに驚きを感じました。

ワーカーズ・コレクティブという言葉(労働形態)もありますが、若い組合員の方々が、これから「労協」をどの様に捉え、何を行って行きたいと考えているのか非常に興味があります。

なかには、大学卒業時に「労協」を就職の対象として捉えた人もいと聞きました。

あらためて、「若者と労協の将来」について共に考える機会を持てればと考えています。

これからも全国のどこかでこのような集会を開催し、その土地での新たなネットワークを広げて行かれることを希望しています。

そして、二巡目に仙台で全国集会が開かれる時まで、わたしも現役で頑張っていたいと考えております。